



油絵「晩秋の果樹園」 作者／横前在住 松沢吉久さん

- ②-③ 9月定例会報告
- ④-⑥ 決算特別委員会報告
- ⑦ 決算審査 現場視察報告
- ⑧-⑫ 一般質問
- ⑬-⑭ 議会チョコッと訪問

- ⑮ 総代さん こんにちは
- ⑯-⑰ 行政合同視察研修
- ⑱ 議員研修会
- ⑲ モニターのみなさんの声
- ⑳ 要望書提出、編集後記

9月
定例会
8日～26日

令和6年度(2024年度)中川村決算

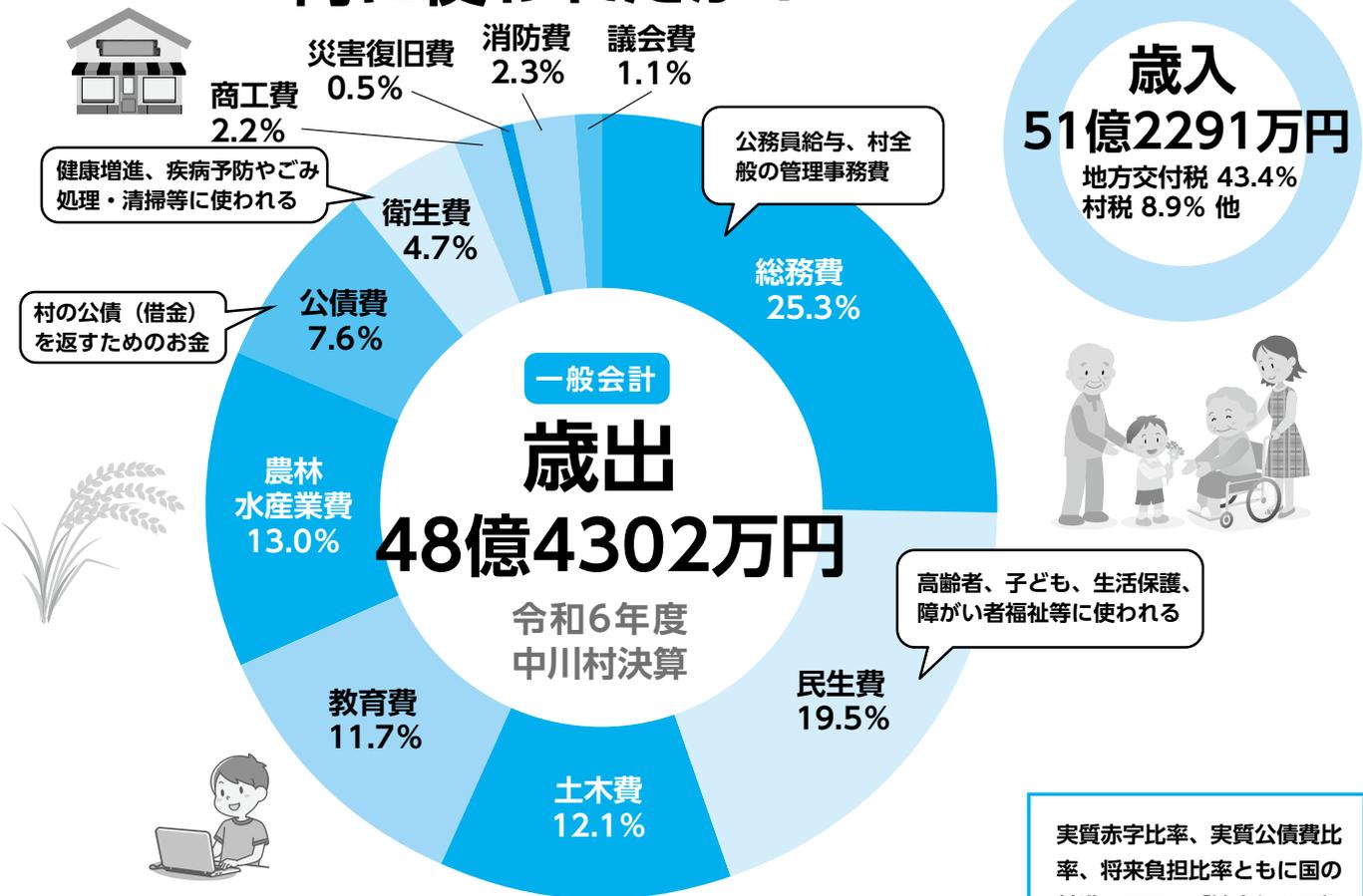
一般会計

特別会計

公営企業会計

48億+20億円は 何に使われたか？

決算審査のページも
ご覧下さい。



実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率ともに国の基準を下回り「健全」の評価

実質収支は2億3887万円の黒字

※グラフや表は四捨五入により総額が一致しないことがあります。

特別会計

(単位：万円)

	一般会計 繰入	歳入	歳出	基金 積立
国民健康保険事業	2338	4億3896	4億3645	0
介護保険事業	8345	6億6170	6億1997	0
後期高齢者医療	1591	7066	7059	-

公営企業会計

(単位：万円)

	補助金	収入	支出	借入金残高	備考
水道事業 (収益的)	1133	1億5129	1億3811	3億0020	※資本的収入額が支出額に不足する分は損益勘定留保資金等で補填している。
(資本的)	2549	1億3474	2億1187		
下水道事業 (収益的)	1億2500	2億7838	2億5251	9億0870	※収入は補助金を含む
(資本的)	8100	1億8029	3億0247		

令和6年度決算認定賛成討論

中塚議員

物価高騰による経済状況から村民生活と経済回復を目指す年となりました。監査総括意見では「厳しい財政事情の中、健全な財政運営に配慮しつつ村民要望に答え各分野で事業が進められている」評価がされました。大型事業も順調に推移している点も確認。総合計画目標に向け各分野で事業が進められていますが、縦串だけでは弱い部分もあり、必要に応じ横串を打ち着実な実践そして村民生活防衛と向上に向け事業展開を期待し賛成討論とします。

9月定例会では令和6年度決算認定の他に、下記の議案等が上程されました。

◆令和7年度補正予算が議決されました。

①第4号一般会計補正予算（9月8日議決）【2億2500万円の増額補正予算】

歳出補正の主なもの

庁舎受発電設備改修工事	200万円
庁舎非常用発電機修繕工事	170万円
地域介護・福祉空間整備補助金	546万円
旧大草駐在所改修工事	1000万円
農業担い手支援事業補助金	800万円
中川村観光ビジョン策定業務負担金	216万円
道路維持管理費	615万円

②第5号一般会計補正予算（9月26日議決）【3500万円の増額補正予算】

歳出補正の主なもの

片桐保育園遊戯室エアコン設置工事	1191万円
社会体育館エアコン設置工事設計監理業務	539万円
鳥獣害防止対策事業（クマ対策）	218万円

◆中川村歴史民俗資料館条例の一部を改正する条例の制定が議決されました。

入館料が下記のように改められました。

区 分	入館料（改正後）	入館料（改正前）
一 般	200円	100円
小 中 高 校 生	100円	50円
年 間 入 館 券	1,000円（新規）	

※上伊那郡内の小中高校生の入館料は無料です。

※改正後の入館料は、歴史民俗資料館がリニューアルオープンする本年11月18日から適用されます。

◆選挙管理委員会委員・補充員に下記の方々が新たに選任されました。

委員 下平和則さん（横前）

補充員 富永由三子さん（柳沢）

◆令和8年1月以降の人権擁護委員に下記の方が村側から推薦され、議会承認されました。

中嶋けさみさん（南原）

一般会計 歳入歳出決算を認定

議会では9月11・12・16・17日の4日間にわたり、決算特別委員会において関係課長・係長に説明を求め慎重に審査を行いました。以下に審査の概要を報告いたします。なお、審査の議事録全文は議会ホームページに掲載しておりますので、詳細はそちらをご覧ください。

【総務課】

〈財政係〉

問 自治振興費の補助金で、各地区の施設整備をやった具体的な内容を教えていただきたい。

答 令和6年度はエアコンが3地区、LEDが2地区。トイレが2地区。外壁が1地区、舗装が1地区です。



渡場地区エアコン設置 (250万)

要望 ストレスチェックに関わる産業医は心療内科の医師を位置づけていただいた方が今後のためによい。

〈財政係〉

問 公共施設等整備基金は学校建設の支払いまで極力多く積んでいくという考え方か？

答 公共施設等整備基金は、可能であれば大型事業前に積み立てを行いたいという方針です。

〈危機管理係〉

問 防災士が令和5年度に27人になったが、防災士の資格を活かした活動の状況を教えてほしい。

答 地区防災士の方々集めて今後の方針等を定めていきたい。

意見 防災士の活用は、行政ですべて決めずに、防災士になった皆さんで検討していただいた方がよいのではないかと。



地区防災マップ (2地区110万)

【地域政策課】

〈むらづくり係〉

問 上伊那広域連合負担金が当初予算から約2274万円増えているがなぜか？

答 クリーンセンター費の600万円増と、情報センター費の負担金が3149万6000円となり、これらが要因と見ております。

〈土地政策係〉

問 お試し住宅に入りたいけども、いっぱい入れなかった方はいらっしゃったのか伺いたい。

答 お試し住宅は毎回抽選を行う状況ですので、抽選に漏れた方は入れませんでした。

問 お試し住宅を今後増やす考えはあるのか？

答 空き家を活用してのお試し住宅化は係内での検討事案です。

〈DX推進係〉

問 チャットボットの評価は次年度もう一度決算審査に出していただきたい。

答 次年度決算まで改善を進めながら効果検証に努めていきます。



通信NW回線中継機器 (242万)

【住民税務課】

〈住民係〉

問 コンビニの交付数は増えているのか？

答 昨年度比で戸籍はマイナス25件、住基はプラス50件。戸籍は昨年3月1日から、本籍地以外でも取れるようになったので、コンビニで取る方も減ってきています。

〈税務係〉

問 家屋外形図作成業務成果品は税務以外の事業にも汎用的に使えるのか？

答 家屋外形図のデータは税務情報ですので他の部署との共有はいたしません。

【保健福祉課】

〈社会福祉係〉

問 介護慰労福祉金の決算額が当初予算の約半分だが、想定よりは減ったということか？

答 在宅で介護される方が減少傾向で、あわせて施設入所があり予定より減少しております。

問 福祉タクシー券の利用率を知りたいのですが。

答 利用率は40%ちょっとです。

要望 福祉タクシー券は良い制度ですが、使い勝手や制度上の問題を前向きに検討して下さい。



いわゆり荘トイレ洋式化 (335万)

(子育て支援係)

問 児童クラブの利用状況が3割以上増えているが、その分析は？

答 保護者の就労が増えていることが一番の要因。次に夕方1人で帰ったりする危険があるということで保護者の方が保育園にお迎えに行く時間まで、児童クラブでお預かりが増えていると感じます。

問 ファミリーサポートセンターの利用件数が200件減っているがこの分析は？

答 保育園への入所が1歳から80%程度に上昇したことが大きな要因と考えています。

(保健医療係)

問 産前産後配食が2838食と前年度よりも増えているが、利用者の声など聞いているか。

答 利用者の皆さんから非常にありがたい支援だという声は聞いております。



産前産後配食 (293万)

(保育園)

問 夏の園庭はとにかく暑そう。何か昨年工夫されたのか？

答 昨年度から温湿度計を常時職員が持って対応し、子供の安全を第一に取り組んでいます。



みなかた保育園園庭整備 (203万)



片桐保育園オープン購入 (255万)

【産業振興課】

(農政係)

問 国の物価高騰対応臨時交付金について節約に努めたらその努力が認められないという制度設計は再検討すべきでは？

答 経費削減の努力が裏目に出た話は聞いており、今後の支援策の参考にして検討する要素だと考えます。

問 鳥獣害対策で猟友会はとにかく存続の危機だ。行政として課題をどう捉えているか？

答 猟友会駆除班の方からも、この間お話がでており、令和7年度から今までの体制を見直ししております。



ロボット草刈り機4台補助 (137万)

(耕地林務係)

問 危険木除去事業について、急激な雨による倒木で停電が広範囲に広がり、ある程度長期になるような所が相当あるのか。

答 毎年中部電力と打ち合わせをしており、ここは切れたらどのぐらいの世帯が停電して、影響が及ぶかという点も共有している。

問 森林解析調査の結果の成果を出していただきたい。

答 全員協議会などで調査成果の報告をするようにいたします。

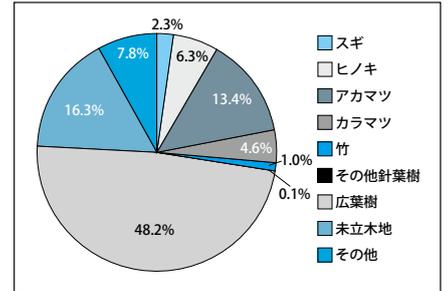


図 2-3 林相の割合 (%)

森林解析調査業務 (830万)

(交流センター係)

問 返礼品偽装問題について、村内は確認しているか。

答 令和6年度につきましてそのような事例はありません。



農産物加工施設荷降場増築 (440万)

(商工観光係)

問 合宿誘致補助金の内容は？

答 夏のスポーツ合宿が8件で、冬場に天文部の合宿が1件。全て望岳荘を利用しています。



桑原キャンプ場倉庫設置 (852万)

【建設環境課】

(建設係)

問 耐震改修事業について前年と同じ議論はまずいと思う。村民に可能なメニューを提案すべき。

答 今後、アフターフォロー等でしっかりやります。



鳳来沢川改修工事 (4240万)



三共緑地整備事業 (2479万)

(環境係)

問 牧ヶ原南団地の移設凍結に伴い入居を止めているが、入居料も減る一方で、住宅も傷む。南団地の入居を再開すべきでは？

答 牧ヶ原南の入居制限は中長期の事業計画ヒアリングにて再度検討する予定です。

【教育委員会】

(総務学校係)

問 給食用村内産米代は全額補助がされ、給食費負担も極力抑えていることを、保護者に伝えるようにした方が良いと思うが。

答 給食だよりには村の補助政策などは書いてもらうようお願いをしておりますが、もう少し工夫してまいります。



学校給食費交付金 (719万)



西小保健室エアコン設置 (462万)

(社会教育係)

問 文化センターの喫煙所改修工事の内容を教えてください。

答 文化センターに喫煙所が増築されたのですが、これが建築基準法に適合してないということで、法に適合する喫煙所に改修しました。



文化センター大ホール
吊り物設備更新 (1430万)

(会計室)

問 紙の有効利用など経費節減に取り組んでいるのはよくわかる。例えば、紙の使用量が経年変化で減少しているといった効果があった内容をデータで示してはどうか。

答 今後そういったことも含めて削減効果が見てわかるような資料を作成してまいります。

国民健康保険事業、介護保険事業、後期高齢者医療事業の三特別会計歳入歳出決算を認定

9月16日役場本会議場において、決算特別委員会は関係課長・係長に説明を求め慎重に審査を行いました。審査の過程で出された質疑・討論はありませんでした。

水道事業決算、下水道事業決算を認定

9月12日役場第1・第2会議室において、決算特別委員会は関係課長・係長に説明を求め慎重に審査を行いました。

(建設環境課)

(水道事業会計)

問 衛生調査は決算書に項目として挙がっていないが。

答 収益的費用明細書の委託料859万円のうちの700万円弱が衛生調査費です。

意見 収益的収支の項目でも、調査や工事の内容を一覧表として今後出していただきたい。

(下水道事業会計)

問 移動脱水車を購入した成果は？

答 新しい車両になって脱水効率非常に良くなっている。飯島町浄化センターでは脱水時間が短縮できていると聞いております。

総務経済委員会現場視察

9月17日

小和田地区堤防・基盤整備事業



着工前の地面から高さ2～3m分のリニアトンネル工事の残土が運ばれた状況。ここから約50cm小渋ダム堆砂土を積み上げ、20センチ耕作土を入れて水田として造成する計画。



農地と天竜川の間には、現状の堤防を約3m嵩上げし、高い堤防を作る計画。度々起こる川の氾濫に備える。



小渋ダムの堆砂土については、GPSとセンサーによって追尾されたブルドーザーで整地を進めており、大幅な効率化とオペレーターの負担軽減に繋がっていた。これまでで約17万㎡の残土が運ばれた。



Bブロック南端の敷地では、来年の取水に向けた仮設井戸を掘削中。既存の地盤面から4メートル掘削し水が湧出していた。

厚生文教委員会現場視察

9月17日

歴史民俗資料館改修工事

建物の老朽化が進み、安全性や展示・資料保管環境の改善や、耐震性・バリアフリー対応などが求められていたことから、改修が行われた。



「中川村の暮らしを感じる資料館～「見て」「触れて」「発見する」～」が新コンセプト。体験型文化施設としての活用が期待される。

1億
7500万円
(R6年分)



こども家庭センター新設

従来の「子育て世代包括支援センター（母子保健）」と「子ども家庭総合支援拠点（児童福祉）」を統合し、妊娠期から子育て期まで切れ目ない支援を提供することを目的に設置。こども本人からの相談も受け付ける。



4154万円



保健センターを改修し、従前は狭かった事務スペースを新設拡張。相談室を複数設置し、トイレも改修した。



安心できる温かい不登校支援を

中塚礼次郎

問 子ども達が通いたくなる学校に

答 学校保護者地域が一緒の取組を

教育長

問 子どもの不登校はこの10年で3倍と急激に増え、小中学校で35万人近くなり、これまで少なかった小学校低学年でも増えてきている。今こそ不登校への子どもも親も安心できる支援が必要と考える。ひとつは行き渋りや不登校で悩んでいる子どもや親、保護者への温かい支援。もう一つは、学校が嫌いという子供が増えている現状から、子どもが通いたくなるような学校にしていく必要がある。この2点について考えを。

教育長 不登校の状態にある児童

生徒が増加し続けていることについては、学校の在り方に関する様々な問題を浮き彫りにしていると捉えている。現在対処療法的な対応が目立つが、学校は子どもたちが安心して通える場所になっているか、通いたい場所になっているかについて考える必要がある。指摘のとおり、子どもたちが通いたくなる学校を目指していくことは大変重要なことで、新たな学校づくりプロジェクトにおいても、こうした視点において学校づくりを目指している。

安心できる温かい支援では、「教育は人なり」と言われ、教員の人間的な魅力や専門性の影響もあるが、これからは、教員だけでなく、保護者や地域の皆さんも一緒になって取り組む、そんな学校が必要。その中で、暖かな支援も実現していける。通いたくなるような学校、一言でいえば、子ども達がわくわく学び、リアルに体験できる、こんな学校を目指していきたいと考えている。



一般診療のできる病院へ転換を

桂川雅信

問 経営強化プランも見直しを

答 毎年プランの見直しを行っている

村長

1 新病院建設

問 新病院建設に関する従来の基本方針を全面的に見直すこととなり、紹介受診重点医療機関の設定を見直し、上下伊那の病院も含め病院間連携等も検討することとなった。しかし、健診受診者が10%以上も減少した要因が医師の対応不足という基幹病院としては情けない実態を改善もできずに、どうして高度急性期医療の需要に応えられるのか。現実を無視した経営強化プランそのものを見直しが必要なのではないか。

村長 経営強化プランは毎年見直し評価・課題のまとめを行っている。病院ではいま医療サービス向上委員会を設置しアンケート結果を病院内で共有し、改善につなげていると聞いている。

2 リニアに依存しない村づくりを (その2)

開業時期を気にしていない

JR東海

問 リニア促進県協議会は開業時期の明確化を求めているが、JR東海が公式に発表している資料を見れば、開業時期の計算はできる。

一番遅い岐阜県駅と長野県駅の完成から見れば早くても開業は2042年となる。JR東海は株主総会で「工期が延びれば財務上の負担は軽減される」とまで述べており、「困ることはない」としている。こんなリニアに村の総合計画を連動させてよいのか。

村長 リニア開業は10年後以降ということを考えて、むらづくりの施策はそれとは別に進めていく所存である。

3 高齢者の社会的役割を見直すとき

～高齢者の社会参加は双方にとって有益～（議事録や動画をぜひご覧下さい）





魅力的な地域に仕事を作る

松村利宏

問 企業が村に進出したくなる取組は

答 11月サウンディング調査実施

村長

問 チャオ周辺の活性化・望岳荘の将来体制・小中一貫校周辺・特に二地域居住の在り方・陣馬形山の在り方について目的、目標を明確に定め、初期投資を回収でき、村の負担がないようにしなければならぬ。このため、民間の力を活用することが必要。企業が村に進出したくなるような取組が求められる。

村長 11月に東西小学校の廃校後利用サウンディングを予定しており、民間活用を視野に入れた取組を進めていく。企業進出につなが

る取組も検討していく。少し規模感が小さくても見合った企業は呼べる可能性があると思う。

問 村の地域資源である多くの緑、きれいな水、雄大な景色や個性豊かな商工業者などを基盤に、地域全体を居心地のよい商空間と捉えたグランドレベルデザインが求められている。三遠南信自動車道の開通により物流に変革がもたらされ、地方回帰への関心の高まりとともに、ビジネスを取り巻く環境は今後ますます変動していく。村への効果を最大化できるように準

備することが必要では。

村長 商工業、観光や働く環境は都市圏との往来距離の短縮に大きく影響する。働く環境の変化を踏まえた上で、関係人口、交流人口を超えた二地域居住等の推進も見据えて検討していく。商工業者の皆さんに対する事業の継承や新分野への事業転換を図る事業者への支援を行いつつ、チャオ、チャオ周辺の居心地のよい商空間づくりを視野に入れた検討を行っていく。



三遠南信サミット2025

※サウンディング 特定のテーマに関して意見や情報を収集するために行われる話し合いや調査のこと



6年度予算執行による手応えは

山崎啓造

問 係新設での行政効果、経済効果は

答 連携強化で相談しやすくなった

村長

問 子ども支援係・福祉相談係を新設したことによる効果と課題は。

村長 こどもを取り巻く環境や、村民から寄せられる複雑化する相談に対し、係が連携することで横の繋がりが増し体制強化が出来ている。包括的相談は今後ますます重要性を増す。対応強化を図る。

問 こども子育て支援を手厚く実施しての行政効果と手応えは。

村長 子育て支援に対する「満足度アンケート」を実施したところ前回調査に比較して満足度が増加していた。支援を考えると、保

護者の皆さんのニーズ調査が大切。子育て支援に関してはある程度事業化できた。新しい支援の拡大に関してはニーズをくみ取り事業化。

問 6年度村政運営の基本方針で脱炭素・再生可能エネルギー推進事業体計画確立とある。現在の進捗状況は。

村長 中川村地球温暖化対策推進協議会の提言を受けて、可能性を認め具体的な検討を進めている。

問 酷暑の今夏、村民に対する注意喚起（一人暮らしの高齢者や経済弱者）はどのようにされたか。

村長 民政委員の皆さんや、ケアマネージャーの皆さんに注意喚起を御願ひした。

問 人手不足の現状に鑑み、特定地域づくり事業協同組合の組織化、人材確保に取り組むとあるが。農家や事業所は理解しているか。

地域政策課長 制度説明会を実施し、調査・制度の周知・視察・研究を進めている段階。年度内に組合設立にめどをつけ、引き続き説明会を開催し、幅広く周知を図る。



地区組織の今後のあり方検討を

長尾和則

問 住民参加で検討の場づくりを

答 段階的に改善を図る

村長

1 地区組織の今後のあり方検討

問 昨年村が実施したアンケートで「若い人が少なく地域作業や役割が滞る」不安感を多くの村民がお持ちであることがわかった。議会と地域との懇談会でも同じ声を多く聞く。地区組織の今後のあり方について、村民が広く参加できる柔軟な検討組織を早期に立ち上げるべきではないか？

村長 課題は認識している。まずは総代会を中核に課題整理を進め、段階的に改善したい。

意見 総代は多くの地区が1年任

期である。総代会を中核とするのでなく、検討会を立ち上げ広くメンバーを募り時間をかけて実効的な検討とすべきである。

2 村内転居しやすい政策の推進

問 住みなれた中川村内での移住を考えておられる方が一定数みえると想定する。村外からの移住者に対する政策に加え、村内転居しやすい住宅政策を展開するべきではないか？

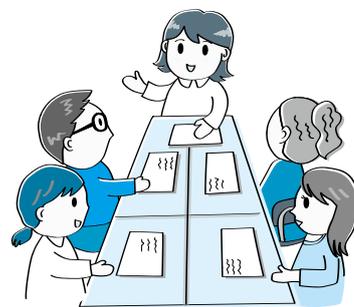
村長 今後策定する村の立地適正化計画では居住誘導区域を設定する。将来村内移住を希望される方

にはその区域への移住検討もお願いしたい。

3 DX推進の成果を村民益に

問 現在村が積極的に展開しているDX推進の最終目的は村民に対する「サービス改革」である。村民が実感できる効果を期待するが？

地域政策課長 LINEの活用やスマホ教室等徐々にメリットを体感いただいている。今後も地域社会の課題に対してデジタル技術を活用していきたい。



参院選から見える今後の課題

大原孝芳

問 外国人に対する排外主義が心配

答 全国知事会の提言を支持する

住民税務課長

問 村に暮らす、または働く外国人の実態を問う。どのような理由で村に暮らし、働くのか。これまでに問題行動等が発生したことがあるのか。

住民税務課長 村内の外国人の住民基本台帳登録者数は、9月1日現在86人で、村の総人口の1.9%を占め、10年前の約2倍になっている。多くは村内で農業や製造業に従事している。問題行動等について、村では把握していない。

問 全国知事会は、排他主義、排外主義を否定し、多文化共生社会

を目指すと宣言した。提言では、外国人の受け入れは今後も必要との認識から、地方に配慮した外国人就労制度の充実を国に求めた。同時に、外国人への支援が自治体任せになっていると指摘。

定住を前提に、日本語教育の充実、高齢化に伴う介護、年金、子どもの教育などへの十分な財政措置を国に強く要請している。こうしたことを踏まえ、村長は、地方政治のリーダーとして、多様性を尊重することの価値を発信し続けることが必要ではないのか。

村長 人口減少が進み、外国人の就労に依存する部分も非常に大きく、持続可能な中川村を目指すためにも、外国人を含む移住者の受け入れは今後も必要と考える。国籍による文化、習慣などの違いを理解し合い、互いを尊重しながら暮らせる村を目指したい。全国知事会の提言を支持し、村としてもこれに沿った要望を国、県につなげていくという立場で、進めていきたい。



今後の水田施策(パート2)

片桐 邦俊



問 コメ増産方向へ舵取りするべき

答 主食用米の大幅な増産は難しい

村長

問 村は今まで目安値を下回る生産実績となっているがコメ増産方向へ舵取りをするべきではと考えるが村の考えは。

村長 7年度の村のコメ作付けは酒米・飼料用米含め208.2ha。水路の老朽化等圃場整備問題もあり、目安値の提示の有無にかかわらずここで主食用米を飛躍的に増やすのは難しいと考える。

意見 現状の面積維持を要望する。

問 国は農地分散を解消することができ、農作業が連続的に行える農地の集約化に力を入れていくよ

うだが、村の考えは。

村長 村は農業委員会、地区、集落営農組合等との連携を図り、農地中間管理機構による農地賃貸等担い手の集積化を進めていく考え方。

問 農地が集約化され、面積が大きくなればスマート農業の話も出てくる。今後のスマート農業の取組について村の考えは。

村長 飯島町の法人では、スマホにより水田の水位の確認・水門の開閉ができる自動給水装置が設置されている。ドローンは集団利用

でコストダウンにつながるだろうなどという見方も考えている。今後研究していく。

問 村では農産物の収入保険制度の掛金に対して補助をしているが、コメ情勢、また他の農産物の状況を考えると補助の継続が必要と思うが、村の考えは。

村長 収入保険の掛金が高いことが加入をためらう原因となっているので、これからも掛金を助成する。支援は今のところ継続し農家を支えていく考えである。



水田に設置された自動給水装置

立地適正化計画について

島崎 敏一



問 毒まんじゅうにしないためには？

答 施策をきちんとやっていく

村長

問 本計画を、形骸化された計画ではなく、住民の意思がはっきりと反映された計画を庁内での横断的な組織づくりと地域住民との熟議を経た合意形成、によって実現すべき。学校建設の補助金という目先の利益にとらわれ、居住誘導区域以外の中山間地は衰退していくという村の未来にとっての毒まんじゅうにならないよう、しっかりと計画の効用と副作用を理解し、計画策定するべきと考えるが。

村長 誘導区域から外れた地域が放置されてしまうことを心配して

いると思うが本計画は、誘導区域外であっても交通ネットワークで結ばれ、地域特性に応じた住環境を確保する計画であるために、計画を推進することによって誘導区域外が取り残されるということはない。

モンキードッグ(忠犬事業)

問 村にはモンキードッグを育成、飼育できる仕組みがあり、訓練費用補助の制度もあるが、効果的な活用が見込めないままになっている。地域の方々に向けて情報提供や学習会を企画し、獣害対策の機

運を高め、対策を講じる必要があるのではないか。

産業振興課長 この事業を行うに当たっては導入の適地=追う先が山中、被害地が山林に面しているようなところが前提。適地を探って協議会等で実証の実験等を行う必要性もある。まずはこの事業の周知等を改めて行い、その反応を基に状況に応じて学習会等の企画、実施について検討していきたい。



南木曾町の忠犬事業の立て看板

ピンクの首輪が登録の目印

「日本で最も美しい村」

大島 歩

問 村民との協働を進めるには

答 協議会開催等、連携を強化したい 地域政策課長

問 6月に中川村で「日本で最も美しい村」連合の総会が開催され全国から約200名が来村した。しかし村民から「知らなかった」等の意見があった。もっと官民協働での「美しい村」づくりをする必要があると思うが、現状と課題は何か。

地域政策課長 現在、中川村の連合準会員は28名で、正会員はいない。協議会は商工会や地域団体等で構成されているが、コロナ禍以降活動が停滞しており、再活性化を図る必要がある。文化継承については、地域づくり支援事業補

助金により伝統芸能や棚田の保全活動などを支援している。今後は準会員との連携強化や、文化の視点を含めた制度の検討が求められる。

問 学校教育ではどのように取り組んでいるか。

教育長 新たな学校づくりプロジェクトにおいて「美しさ」を「魅力は何か」という問いに置き換え、意見交換を行った。「多彩な人々」「美しい自然」「おいしい農産物」「中川村ならではの暮らし」の4つを村の魅力と再定義し、「ふるさと中川学（仮称）」の創設を検

討している。地域と連携し、子どもたちがふるさとに誇りを持つ教育を進め、教育の魅力化と発信を図っていく。

問 今後の「美しい村」づくりに向けた村の姿勢は。

村長 「美しい村」づくりは景観、文化、産業、教育など多分野にわたる村づくりの根幹である。村民とともに誇れる地域を次世代へつなぐため、広報や協働を強化し、持続可能な美しい村を目指していきたい。



「日本で最も美しい村」連合総会には、北海道から沖縄までの加盟町村や連合会員が中川村に集った

議場がリニューアルしました

議場の多目的化工事が7月末完工し、9月8日の9月定例会から使用を開始しました。

議場をフラット化し、机・いすを可動式としたため、会議によってレイアウト変更が可能となりました。



9月定例会の様子



決算特別委員会の様子



訪問先 GOKOとまとむら株式会社 事務所

取締役社長 後藤 佳子 様

訪問日 2025年9月4日(木)

訪問者 総務経済委員会 2名



(1)現況

- ①GOKOとまとむら株式会社は、現在地にあったカメラ工場がマレーシアへ移転したため、23年前後藤社長の父親が遊休地解消を考えアグリ事業（トマト栽培：オランダ式）を開始した。会社は、本社（川崎市）の中川事業所だったが、現在分社化しており、後藤社長とご子息で経営している。
- ②トマト栽培は1haのハウス2棟で年中行っており、生食としてカゴメに90%以上納めている。カゴメから夏場の需要が多く忙しい。トマトの苗は8カ月毎に植え替えるため、夏場にハウス2棟のトマトが出荷できるように工程を組んでいる。冬の朝が低温になるため、トマトには一日の温度差が必要なため環境が良い。A重油によりボイラーを炊き温水により暖房している。
- ③従業員は約50名（正社員40名、シルバー10名）、タイからの技能実習生13名。実習生の宿舎は、飯島町七久保の施設を利用し自転車で通勤している。
- ④現在ジュースを製造していないため、製造に関する機材・資材一式を活用してもらえらる方に寄付したい。

(2)問題点

- ①冬の時期は、トマトの需要が少なくなるため、収入が減る方の仕事を確保しなければならない。
- ②片桐地区にクマが頻繁に出没しており、実習生が七久保から自転車で通勤しているため心配である。
- ③伊那田島駅方向からトマト運搬の大型トラックが侵入する道路を、木が覆っており通行に支障がある。



樽澤理事長 川田理事

訪問先 農事組合法人 ^{みゆき}三幸
代表理事 樽澤 春幸 様
理 事 川田多喜雄 様
訪問日 2025年8月25日(月)
訪問者 総務経済委員会 2名

【会社の設立と業務】

農事組合法人三幸は、国の農業経営育成促進農業構造改善事業により1994年7月にきのこ（ぶなしめじ）の生産会社として設立され、1996年9月より生産が開始された。現在の年間出荷量は約750トン以上となり、生協、地元量販店及び関東を中心に全国市場へ販売をしている。

【会社の現況】

現在の従業員は30名で、海外からの研修生15名とあわせて45名体制。研修生の出身はベトナムを中心に中国、タイ、インドネシア。従業員を年間雇用するため、過去はきのこの不需要期の夏は生産を減らし、アスパラやブロッコリーの栽培をしていたが、現在は夏の生産調整をすることなく、年間きのこを生産している。今後の担い手については外国人が主流になるのではとのことであった。コロナ禍で運転資金が厳しかった折、村の融資施策があり助かった。

【行政への要望等】

- 会社の屋根を企業の太陽光発電に貸していたが、法人で買い取り、自家消費を得るために申請を進めている。許可がスムーズにとれるよう行政のバックアップを望む。
- 農業関係だけでなく、商工関係などで法人として利用できるような補助事業を積極的に提案してほしい。
- 若い人を集める農業を村として考えてほしい。

訪問先 陣馬形山 アルプスビューラウンジ
秋山 祐毅 様
訪問日 2025年8月29日(金)
訪問議員 総務経済委員会 2名

【陣馬形山キャンプ場⇒陣馬形山アルプスビューラウンジに改名】

だれでも気軽に来てゆっくりしていただけるように改名した。キャンプ利用者は年々減ってきているが、キャンプ利用の方以外の方の利用に以前より重点を置いている。物販と飲食は好調。オープン時期は4月初旬～12月初旬。



【停電が多くて困っている】

復旧に時間がかかる。陣馬形山のための停電もある。特に山頂直下の停電時の非常用発電機の騒音が非常に気になる。

【日帰り利用者用の共有スペースについて】

もっといろんな人がふらっと寄れる場所を目指したい。日帰り利用する方への設備、居場所をもっと充実させたい。

【周辺樹木の伐採について】

展望を楽しみにしている方のために、継続的に伐採をしてほしい。

訪問先 桑原キャンプ場
齋藤 真吾 様
訪問日 2025年8月29日(金)
訪問議員 総務経済委員会 2名

【現状と課題】

開設時期は4月下旬～11月。利用者は少ないが、それも見越して指定管理を始めた。自分たちが掲げた理念を実現させていくには、何をすることも時間がかかる。あと2年半でどれだけ実現できるのか模索中。

【今後の展望】

地域に根ざし、地元の人にも来ていただける公園のようなキャンプ場にしたい。幅広く自然を活用した取り組み、自然観察会・食・文学・林業体験などを企画している。10月には樹木の観察会を行った。ある人にとって最悪は、ある人にとっての最高という価値観の多様性こそが今の世の中。色々な可能性を模索していきたい。

【村への要望など】

当施設は村の施設なのだが、以前管理していた組織との間で設備の更新履歴などの情報共有ができていない。四徳川に堆砂がふえて浅くなった。再び深くしたい。





総代さんこんにちは

葛北地区

訪問日 2025年9月29日(月)

議員訪問人数 2人

総代 松澤 公人さん

副総代 川田多喜雄さん

【概要】

地区加入戸数 49戸 人口 190人

天竜川の東斜面の河岸段丘に広がる地区。中央アルプスの展望の良さから、近年移住者が増えている。

【地区の現状】

- ・春祭り、秋祭り、区民運動会、御柱祭など、季節ごとに交流の機会を大切にしている。
- ・地区作業として、春の井普請、道路脇の草刈り、年末の清掃作業、年明けの土手焼き等がある。担い手の減少により地区作業で作業しきれない場所については、若い方達で《草刈り隊》を組織して、地区から日当を支払って刈ってもらっている。彼らの熱意が原動力となって機能している。



葛北公会堂にて

【課題と要望】

- ・地区未加入者との接点の持ち方について。都会と田舎で暮らし方の違いなど、地区運営に理解をしてもらうための取り組みが必要。都市と農村との相違点をお知らせできるような仕組みがあったらいい。
- ・竜東線は県道であり、本来は県でやるべき。地区要望は出しているが、現状は地区で刈っている。また、路上にゴミがよく落ちており困っている。

中田島地区

訪問日 2025年9月27日(土)

議員訪問人数 2人

総代 大場 勉さん

副総代 大場 竜二さん

会計 大場 茂さん

【地区の現状】

- ・中田島は片桐村発足時（明治8年）から続いている地区。現人口231名、地区加入は67戸で組数は9組。
- ・地区内において平成17年度に戸建村営住宅、平成23年度に集合村営住宅が建設された。現在も全ての住宅に入居者がみえる。若い方が多いので地区活性化の大きな要因となっている。
- ・中田島の村営住宅に入居されていた方が地区内に戸建住宅を新築されてたり、戸建村営住宅が徐々に個人に売却されることにより地区の定住人口が増え、中田島地区としては大変ありがたく感じている。
- ・地区行事はどんど焼き、夏祭り、軽スポーツ大会、忘年会等活発に実施されている。子供が多いため賑やかで楽しい行事となっている。
- ・旧道沿いの古くからある住宅は高齢者のみの世帯が増えている。また、空き家も発生している。



懇談いただいた役員の方々

【村への要望等】

- ・昭和58年の台風災害で地区西側の山林が崩落した。当該地は治山堰堤で対策が講じられているが、地すべりイエローゾーンに指定されている。また、地区南端にある八幡沢の上流に砂防堰堤があるが、土砂が溜まっているので不安である。

放課後のこどもたちの居場所・あり方について検討するため、「学童保育（預かり児童）」と「放課後子ども教室（自由参加児童）」の一体的運営をしている福井県勝山市の児童センター2施設を行政担当者と合同で視察しました。

また、「一律の宿題」を廃止した校長として話題になった元岐阜小学校の藤田忠久さんのお話も伺ってきました。

7/7（月）～7/8（火）
厚生文教委員会を中心に議員5名
保健福祉課長、担当職員2名
社会教育係長、放課後子ども教室担当者

視察1日目

勝山市児童センター2施設へ

- ◆勝山市の児童センターの主な3つの役割
 - ①学童保育の場（留守家庭の児童預かり）
 - ②居場所（放課後や長期休暇時の遊び場）
 - ③体験や交流の場
- ◆小学校区ごとに9つの児童センターがある。勝山市の6～11歳の児童数は約900名。各小学校の児童数は20人以下から250人以上まで地区により差がある。
児童センター登録率は53%～100%。小規模校ほど高い傾向。
※（参考）勝山市の人口：20,756人（R 7. 9月末）
- ◆「子育て支援日本一」を目指し、保護者の経済的支援の観点から、利用料無償にした。事業費1.1億円。財源は国1/3、県1/3、市1/3。

利用対象	勝山市内に住所を有する小1～小6までの児童
利用料	無料。行事等で使う材料代の一部負担あり。
利用できる時間帯	【通常時】 月～金／学校終了後から午後6時まで 【土曜日】 午前8時から午後6時まで 【長期休暇時】（春、夏、冬休み） 月～土／午前8時から午後6時まで
利用方法	登録申請時にどちらかを選択 ①学童保育（預かり児童） 保護者と約束した時間帯を預かる。勝手に帰ったり、無断で欠席できない。お迎えの場合は、午後6時まで利用できる。 ②自由に来て自由に帰る（自由来館児童） 遊び場として利用したり、行事に参加したりする利用です。子どもだけで退所する場合は、午後5時前（冬は暗くなる前）に帰宅。

見学1

小学校内に施設がある

成器西児童教室（にしザウルス）

- ◆2010年（H22）開設。成器西小学校児童数は157人、児童センター登録数106人（67.5%）。



開館時は校舎と児童センターを扉やシャッターで仕切る。



3つの部屋と、体育館が使える。校庭は使わない。



時間帯で「静かに過ごす時間（学習）」「遊びの時間」を分けている。季節行事、地域の方とのふれあい、制作活動なども行われる。



担当職員さん

市内の4つの児童センターが校舎内設置型です。最初は多くの議論があり、空間をきっちりわけたりと苦労もありましたが、15～20年経ち、先生方との信頼関係がすごくできました。お互いに行ったり来たりして、情報共有も密に行い、良い関係が築けています

見学2

地域との交流が活発 のむけ 野向児童館

◆2011年（H23）開設。野向小学校児童数は15人、児童センター登録数17人。2人は近くにできた私立「かつやま子どもの村小学校」の児童で、長期休暇中のみ利用している。



野向児童館は学校に隣接して建てられている。



この日は地域の皆さんが大勢参加して、モルック大会が賑やかに行われていた。



クラフト教室、チャレラン大会
むかしのあそび等、さまざまな
催し物が行われる。

児童センターの運営は「教育委員会こども課」

勝山市では、少子化対策と子育て支援の強化を目的に、2023年4月に教育委員会内に「こども課」を設置しました。児童センターの運営もこども課が担っています

それまで福祉部門が担っていた子育て支援業務の一部を教育委員会に移管し、妊娠期から学齢期までの切れ目ない支援体制を構築することが狙いです。

こども課が設置されて、保健福祉分野と教育委員会のオフィスが離れてしまい、不便に感じるところもありますが、それ以外は情報共有などの面で教育委員会と一緒になったメリットの方が大きいと感じています



担当職員さん

視察2日目

「一律の宿題」を廃止した元岐阜小学校校長 藤田忠久さん

教員時代から「こどもたちがイヤイヤやってくるものに○×をつけること」に対して疑問を感じていたという藤田さん。また新任の先生からきた「宿題チェックでこどもたちと一緒に遊ぶ時間がとれない」という悩みも、宿題見直しのきっかけとなったそうです。

2022年に学校運営協議会での賛同を経て「宿題」を「家庭学習」という名称へ改め、こどもたちは自分で決めるか、家族等と相談しながら家庭学習の内容や方法を考える方式へ転換しました。

好奇心や探究心が高まる子が増える一方、やらない子はやらない・「困る」という家庭の存在・先生たちの抵抗感など、さまざまな課題もあるようです。対話や意見交流を重ねてこどもたちの「自ら進んで学ぶ力」を育てることが大事、とお話いただきました。



視察を通じ、勝山市の視察と、藤田先生のお話を通じて、こどもたちの放課後の居場所やあり方について、今までと違った視点から考え直すことができました。新たな学校づくりと並行して、今後もこどもたちの「放課後」が豊かになっていくよう考えていきたいと思ひます。

中部伊那町村議会協議会 議員研修会

1 目的

郡境に位置する中部伊那町村議会（中川村、飯島町、松川町、大鹿村）が年一回一同に会し県への要望、連携議題を協議し中部伊那の連携を図っており、情報を共有するため各町村の首長等に同席してもらっている。

2 期日・場所

令和7年8月26日（火） 松川町中央公民館

3 令和6年度決議事項の処理経過報告後、令和7年度提出議題8項目を2つの分科会で審議し県へ提出することになった。

- ① 町村議会議員のなり手不足に向けた取組について
- ② 外来植物の取組について
- ③ 国道153号伊南・南信州北部（飯島町本郷～松川町元大島）間改良促進について
- ④ 放課後子ども教室推進事業等の三事業推進に関する提案について
- ⑤ 主要地方道松川インター大鹿線の防災事業の推進及び国道152号の通年通行の実施について
- ⑥ 介護職員の人材確保について
- ⑦ 主要地方道飯島飯田線上片桐バイパス及び飯田以北の整備促進について
- ⑧ 重度心身障がい者及びひとり親家庭の福祉医療費に係る窓口での現物給付の実現について



分科会での審議

4 中部伊那4町村における公共交通の連携について4つの分科会で協議し、各町村の公共交通の取り組みを理解するとともに町村で連携できる可能性につて深化することができた。

上伊那市町村議会 議員研修会 10月3日（金） 辰野町民会館

上伊那郡の議員と市町村理事者が集まり研修会を行いました。毎年会場が異なり、今年は辰野町で開催され、同町在住の小口良平氏による講演『日本のローカルを変えた自転車まちづくり～超高齢化社会をみすえて、今から自転車事業にできること～』を聴講しました。

小口氏プロフィール

世界中を旅している自転車冒険家であり、自転車旅行研究家。世界を旅して感じた多様性を発信しつつ、自転車まちづくりのキーパーソンとして活躍中。

自転車×〇〇

自転車がまちにとって魅力的な存在であるということ、様々な事例と共にご紹介いただきました。

【健康・ウェルビーイング】

自転車は膝への負担が少なく、歩くよりも体に優しい。太ももの大きな筋肉を効率的につかうことができるので、新陳代謝に効果的。通勤で活用できれば、仕事のストレスの軽減にも良い。

【環境】

排気ガスを出さず、ゼロカーボンに貢献。また製造時にかかる環境負荷も低い。

【防災】

車で走れない道も走破できるため、災害時に自転車を地域の2次交通として準備している自治体もある。

【野外教育】

サイクリングクラブの運営をしていて、毎年数日間のサイクリングツアーを実施している。不登校・発達障害のこども達ともつながる機会となっている。

【観光】

中部地方をサイクリングロードでつなぐ・結婚式・キャンプ・婚活など、様々な事業とコラボレーションをしている。

自転車の可能性にワクワクしたお話でした。様々な分野を有機的につなげれば、地域活性化につながると改めて感じました。



7月に発行した141号に対するモニター様の声を抜粋して掲載します。全てのご意見等は「村ホームページ - 中川村議会 - 議会だよりなかがわ - 議会だよりモニター」に掲載しましたので是非ご覧ください。

① 141号の表紙について

◆切り絵第二弾!「果たしてその先にあるものは…!?」って感じですね。さすがの迫力!今回もインパクト大で惹きつけられました。

◆チョイソコが映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のデロリアンになっている一枚。今回もインパクトが絶大で、見た瞬間「おっ!」となりました。チャオにいるドクが絵の面白さを引き出してくれている気がします。



② 141号の紙面構成について

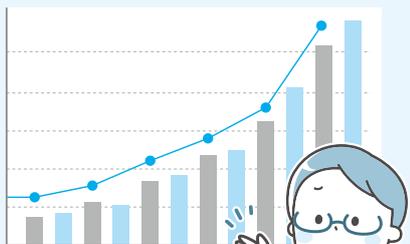
◆冒頭のページがぱっと見字が多いなと思ってしまうのですが、読んでみると必要な情報がまとめられているのがわかります。こういうページを見てもらうにはどうしたらよいのかな。

◆チョコッと訪問の部分も情報はよく整理されているのですが、紙面の都合で1ページに2件は少し窮屈に見えました。



③ 141号の記事の内容について

◆一般質問の病院の赤字についての記事が衝撃でした。経常利益が出ているならまだ大丈夫なのかな?とも思いますが、メインの医業で5億円超の赤字はとんでもないことだなと思いました。物価高騰や賃上げによる経費の増加が原因なのでしょうか?高齢者社会により医療の必要性が年々大きくなっていくことを考えると、もっと安定感のある収支になって欲しいとも思いますが、医療費が高騰してしまうと病院の



患者がさらに減ってそれにより経営成績も更に…と悪循環になってしまいそうな感じもあり、中々難しい問題に感じました。

◆村内で暮らしていてもあたりを見回しても、農地の維持や空き家問題の解消は急務だと感じています。他所様の所有物に対して個人ができることには限りがありますので、政治行政のサポートが不可欠だと改めて感じました。こうして議論が行われて進展することを期待します。また、土地が維持されることで保



たれる景観や環境が全地域住民の共有財産であるという認識が広がって、保全や活用に向けた取り組みがさらに活性化するとよいと思います。

◆なかなか副村長さんのお話を伺う機会がなかったので、今回「おつかれさまでした」のインタビューが聞けて良かったです。8年間ありがとうございました。

◆議場の改修工事後の多目的使用ができるようになること興味深いです。「こんな利用をしました」という情報発信されるとよいですね。

④ 議会広報ならびに村民と議会のコミュニケーションについて

◆議会がもっと身近になり、質問や意見が言える存在になるために地域の議員さん方総代さん方の力もお借りし、村民の声をひろっていただけたら良いなと思います。(各地区の総会や集まりのような時に)なかなか紙面や大勢の集まりの場で意見が言えなくても、砕けた集まりや対面なら話せることがあるかも…。

◆チョコッと訪問で村内のさまざまな企業・事業者について改めて知れるのは助かります。加えて若者の活動や地域内での新たな取り組み、グループ活動なども取り上げてもらえると、村内で今活気づいている部分が伝わっているのではないかと思います。



⑤ 議会・村に対するご意見・ご要望

◆酷暑の夏が続く中、保育園のプールが日陰になるようにしてあげてほしいと思います。屋根があると少しは安全だと思うのですが。

◆観光振興やイベント開催、文化活動などの賑わいの創出が人を呼び込むきっかけになると思いますので、そのような地域に明るい話題をもたらす活動を村として積極的に支援していただきたいです。



村長に議員報酬の引き上げ要望書を提出

中川村議会は去る9月9日に村長に対して「議員報酬引き上げに関する要望書」を提出しました。

中川村議会議員の報酬額は3年前の報酬改定において現役世代への報酬額加算で「なり手不足」への事態の打開を図りましたが、ここ数年間の諸物価の高騰などにより、一村民としての生活実態は議員においても厳しい状況となっています。特に中川村議会議員報酬は1995年に月額17万4,000円となってから、30年を経た今日もほぼ同水準に置かれたままという異常な状態が続いております。

このことから現状では世代に関わりなく議員の生活と議会活動を保障するために、議員報酬は最低限の報酬引き上げが必要な状況となっていると考えております。実施時期は来年8月の次期議員改選以降からを要望しています。

また、この議員報酬改正に関して考慮いただきたいのは、全国の一般市議会議員と町村議会議員の報酬額の乖離があまりに大きく、その状態が固定化していることも「議員のなり手不足問題」の一つの要因である点です。この点は今回の制度改正で一挙に改善は無理としても、一步ずつ議員報酬のあるべき姿に向かって進んでまいりたいと考えております。

今回の提案では、長野県の民間賃金統計を参考に、まだ十分ではないものの、すべての世代で議員になった誰もが生活と議員活動が保障されることを目指しています。あわせて、実態に見合った財源の確保をめざして、議員報酬に関する地方交付税交付金の算定手順を改正するよう、国への働きかけを長野県町村議長会に要望しています。

議員報酬については今後、条例に基づいて村が設置する「中川村特別職報酬等審議会」において審議されることとなります。



編集後記

今秋はクマのニュースを聞かない日はない。全国のクマの目撃件数は過去最多、村内の目撃情報もご他間に漏れず今年が最多となっている。

私は伊那谷の深い森の中で2度クマと遭遇したことがある。どちらもクマの方から立ち去ってくれ

たので大事には至らなかった。遭遇したときは複数人で会話をしながら人間の存在をアピールしていたにも関わらず、不意の遭遇はあり得るのだと、肝を冷やされたことを覚えている。

公民館主催で行われたツキノワグマの勉強会では、クマとの不意な遭遇を避けることが一番大切だと講師の先生がおっしゃっていた。本当にその通りだと想う反面、個

人でできる対策には限界があるとも思う。専門機関による頭数把握や山の手入れなど、地域総掛かりで課題と向き合わなければならない。

自然の持つ生命力と人間の営みの拮抗した部分、それこそが里山の自然環境を形成してきた。自然の勢力が優位になりつつある今、私達は何ができるだろうか。

(島崎敏一)